



むつ 7 2 0 ~ 4 4
平成 20 年 10 月 15 日

国土交通省道路局長 殿

むつ市長 宮 下 順一郎



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成 20 年 9 月 19 日付、国道企第 37 号にて依頼のありました標記について、別紙のとおり提出いたします。

本年 5 月 13 日に閣議決定された、道路特定財源等に関する基本方針のなかで、「必要と判断される道路は着実に整備する」とのことですが、今後の整備基準が B/C と事業評価で進められた場合、都市部の事業は大きな便益が見込めることから、人口が少なく、経済力が弱い地方との地域間格差が生じることが危惧されます。

下北半島は、六ヶ所原子燃料サイクル施設・東通原子力発電所・大間原子力発電所・使用済核燃料中間貯蔵施設など我が国のエネルギー政策の拠点が集積し、日本のエネルギーを担っていることに対する社会的、経済的効果についても評価に配慮すべきと考えます。

また、地方においては高度医療体制が脆弱な地域が多いことから、三次医療施設へのアクセス時間についても指標への配慮が必要と考えておりますし、都市部の食の供給基地となっていることで農林水産品等の物流量を測る指標や、都市部の癒しの空間となっていることから、入り込み客数についても、指標への配慮ができないものか検討していただき、地域間格差が生じないような基準づくりが必要と考えます。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ②

②-1 地域の現状と抱える課題

青森県むつ市

○現状

- ・ 本州最北端で首都圏から遠隔地
- ・ 下北半島は県内主要市まで遠い地域
- ・ 多雪、寒冷地域
- ・ 人口減少、高齢化地域
- ・ 一次産業に特化した弱い産業構造の地域であり、所得水準が低い

○課題

- ・ 地理的な遠隔性の克服
- ・ 半島性の解消
- ・ 克雪、利雪、親雪の推進
- ・ 人口の安定化
- ・ 産業構造の高度化

--	--

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ③

②-2 地域の目指すべき将来像

青森県むつ市

下北半島縦貫道路が東北自動車道八戸線に繋がることによる高速交通ネットワークの形成によって、下北地域生活圏と県内の青森、南部、津軽の各地方生活圏との交流が活発になるほか、青森、三沢両空港へのアクセスが強化されることで、全国各地との交流も盛んになり、他の各都市の持つ産業、観光、文化を容易に享受できることで、生活面での利便性向上が図られるものと考えております。

経済面では、大都市市場等への近接性が向上することにより、高度な産業立地の可能性が高まるほか、地域の農業、林業、漁業など地場産業の高付加化産業への転換が図られ、下北地域の発展が期待できるものと考えております。

観光面では、下北地域にある恐山、仏ヶ浦など豊富な観光資源と、高速交通ネットワークによる全国の観光地との広域観光ルート化により、更なる観光資源の活用が期待されます。

医療面では、高速交通ネットワークにより、高度医療施設のある青森市や八戸市などへの患者の搬送時間の短縮、安静な搬送が可能となり、地域の安全性が大幅に向上するものと考えております。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

青森県むつ市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・ 地域活力の向上	・ 下北半島縦貫道路は、むつ市と東北縦貫自動車道八戸線を繋ぐ延長約 6 0 km の自動車専用の地域高規格道路として建設が進められております。これまでに「有戸バイパス」 6.3km と「野辺地バイパス」 6.9km 併せて 13.2km が供用され、「北有戸バイパス」 6km 及び「むつ南バイパス」 9km が整備中でありますが、下北半島地域の活力向上のため、一刻も早い時期の全線開通が必要です。	・ 下北地域と県内の各生活圈及び大都市圏との近接性が向上することにより、他の各都市の持つ産業、観光、文化を容易に享受でき、生活の利便性が高まるほか、高度な産業立地の促進、地場産業の高付加価値産業への転換が図られるとともに、広域観光ルート構築による、さらなる観光資源の活用が期待され、高速交通ネットワークによる地域の発展が図られます。また、高度医療施設のある青森市や八戸市への患者の搬送時間の短縮、安静搬送が可能となることで、地域の安全性が高まるものと考えており、半島地域が抱えている生活面、経済面、観光面、医療面などの課題を解消できるものと考えております。	
・ 広域的な危機管理及び国土の適正管理	・ 下北半島を縦貫し、海路を挟む形で北海道と本州を結ぶ国道 279 号は、現在、県管理国道として整備、管理が行われておりますが、下北半島地域で展開されている むつ小川原開発計画や大間原子力発	・ 国道 279 号を直轄国道に指定し、本州から北海道へ繋がる直轄国道のネットワークで管理することで、水準の高い幹線道路網が確保されることから、広域的な危機管理機能及び国土の適正管理機	

	電所建設など国家的プロジェクトを支援する極めて重要な国道であることから、直轄国道として管理することが必要と考えます。	能が期待されます。	
--	--	-----------	--